

すべての  
子どもたちに  
野遊びを。



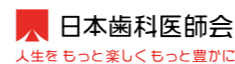
INCLUSIVE CAMP  
Website

<https://inclusivecamp.com>



# INCLUSIVE CAMP

一般社団法人 Burano  
〒306-0231 茨城県古河市小堤 1881-13  
TEL: 0280-23-4490  
<https://burano.or.jp/>





パパもママも、  
新しいことに挑戦する。  
君と一緒に、  
さあ野遊びへ。

テントを張る、火を起こす、そこで料理を作る。  
キャンプフィールドの営みは、非日常の連続。  
カラダを動かしているようで、ココロが一番弾む。  
そんな体験を、家族ではじめよう。

太陽を感じて、  
大地を感じて、  
風を感じて、  
目を閉じていてもできる  
野遊びもある。

地面のデコボコ、葉っぱのカサカサ、  
光のきらめき、季節のにおい。  
今まではこわがって遠ざけてきたこと。  
一緒にたくさん感じて、  
ただそれだけで生きる喜びが込み上げる。  
言葉にならなかった。言葉はいらなかった。





夜空の下で囲む食卓は、  
全部がとくべつで愛おしい。  
いつもはできない話もしよう。

手間暇かけた“キャンプ飯”も憧れるけど、最初から無理しなくてもいい。  
ハードルを下げて広がる楽しさもある。  
この時間をゆっくり過ごそう。

「家族に見せたい景色」じゃなくて  
「自分も知らない景色」に出逢えた。

「知っていることを子どもに教えるのが親の仕事」  
そう思っていたけど、初めての経験を一緒にしたら  
家族の新しい明日が見えた。  
パパ、ママたちだって知らないことはたくさんある。  
君のおかげで新しい景色に出会えるんだ。



## この冊子に込めた願い



一般社団法人Burano 理事  
秋山政明

私たちブルーノは、茨城県古河市で、医療的ケアが必要な子や重症心身障がいのある子をお預かりする多機能型デイサービスを運営しています。ブルーノの活動のなかで、ある家族の一言が新しい物語の扉を開けるきっかけになりました。

「みんなでキャンプができれば楽しいだろうな…」

自然のなかに身を置くキャンプフィールドは、私たちにとって、これまで無縁の場所でした。呼吸器が手放せないお子さんや、バギーに乗ったお子さんを外に連れ出す…そこには難しさもたくさんあるからです。子どもの安全を優先するあまり、自宅から出られずにいる家族もたくさん知っています。

しかし、医療的ケアが必要な子や障がいのある子をもつ家族がキャンプフィールドに足を踏み入れることこそが、家族の可能性を広げ、同時にさまざまな個性がカラフルに輝く社会の実現に繋がると、私たちは考えます。

まずはブルーノが、何組かの家族と一緒に、近くの公園でのデイキャンプや、スノーピークHEADQUARTERSキャンプフィールドでの1泊2日のキャンプを実践しました。そして、積み重ねた学びや体験で生まれた声を一冊にまとめました。

冊子を手にしたあなたも、これから旅の支度を整えて、家族と野遊びに繰り出してみませんか？ その先に、すべての人が同じ空の下に生きている喜びを感じ、あらゆる垣根を超えてフラットに繋がる世界があると信じています。



株式会社スノーピーク 執行役員  
Snow Peak Culture Lab長  
跡路茂文

晴れ空だけではなく、風も吹けば雨も降り、気温も変わる。ときに優しく、ときに厳しく、とどまることなく変化し続ける自然のなかに飛び込み、与えられた道具と自分たちの想像力を使って楽しむのがキャンプの醍醐味です。

それは、日常のなかに溢れかえる「便利さ」を一度手放すこと。

自然の大きさに気付くと、一人ひとりの人間の小ささに気付き、誰もが助け合って生きていかなければならないことに気付く。そこに「健常者」や「障がい者」という隔たりは存在しません。

「医療的ケアが必要な子と一緒にキャンプをしたい」

秋山さんからそんな話を聞いたとき、不安は何ひとつありませんでした。

今回、ブルーノさんのキャンプ体験で、たくさんの笑顔と一緒に「もっとこういう道具があったらいいのに」「こういう機能があったら素敵」といったフィードバックをたくさんもらうことができました。

この冊子をきっかけに、はじめてのキャンプに出かけたら、そこで感じたこと、生まれたアイデアを私たちにぜひ教えてください。

スノーピークは、どんな人でもキャンプを身近に楽しめる世界を目指し、これからも商品開発やフィールドづくりに取り組んでいきます。

## — INCLUSIVE CAMP —

# すべての 子どもたちに 野遊びを。

医療的ケアが必要な子と一緒に、  
はじめてのキャンプに出かけよう

07-08	01「準備編」	13-15	体験レポート
09-10	02「ツール編」	16	Q&A
11	03「食事編」	17	チェックリスト
12	04「遊び編」		



# 01 準備編

## 医療的ケアが必要な子と はじめてのキャンプで おさえおきたい3つのステップ

正しい準備をすれば、どんな家族でもキャンプを楽しめます。  
3つのステップで旅の支度を進めていきましょう。



医療監修  
茨城西南医療センター病院  
医師 上野友之 先生

### STEP 1 慣らす

#### “慣らしキャンプ”で 試してみよう

最初から泊まりのキャンプは少し不安。まずは近くの公園や広場など、デイキャンプができる場所で日帰りの“慣らしキャンプ”にチャレンジしてみましょう。テントや焚き火台をレンタルできる施設なら準備も手軽で済みます。テントを張って、火を起こして、料理をつくって。日が沈むまで身近な自然を満喫しながら、子どもの様子や、泊まりのキャンプに向けての備えを確認しましょう。



#### Check Point

- ✓ まずは子どもの反応をよく見る

////// 医師からのアドバイス //////



お家の中とは違う屋外の環境に緊張してしまうお子さんもいます。バギーでお散歩したり、マットに寝かせてあげたりしながら、表情や身体の様子を観察して、その子にとって心地よい状態を探してあげましょう。

////// 先輩からのアドバイス //////



宿泊キャンプをゴールにする必要はありません。デイキャンプだけでもいつもは見られない子どもの反応に出会えることもあるはず。無理せず自分たちのペースで楽しんで！

- ✓ キャンプデビューは過ごしやすい春か秋がおすすめ。季節に応じて必要な寒さ対策・暑さ対策を考える

- ✓ テントの中でマットの「寝心地」を確認しよう

////// 先輩からのアドバイス //////

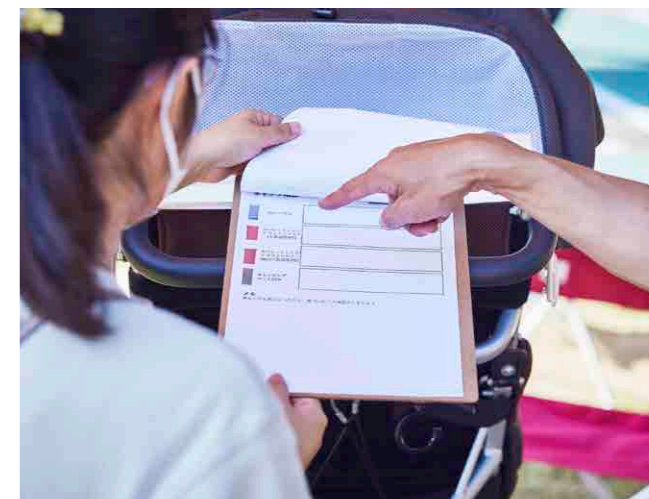


ぐっすり休めることは医療的ケアが必要な子にとってとても大切なこと。マットは硬いのが好きな子もいれば、柔らかい方が寝やすい子、頭が高いのが好きな子など、さまざまです。テントの中でお子さんと一緒に寝転んでみて、その様子を見守りながら、マットの質感やスペースの広さ、ケアのしやすさなどを確認してみましょう。

### STEP 2 選ぶ

#### キャンプ場と 交通手段を選ぼう

泊まりのキャンプに向けて、場所選びはとても大切。河原や起伏の激しい山中のキャンプサイトはバギーの移動が大変なので、標高の高すぎない場所にある平地のキャンプ場がおすすめです。同時に交通手段も考えましょう。電車を使う場合、乗り換えのルートを確認して事前に鉄道会社に伝えれば、サポートをお願いすることもできます。また、何かあったときに備えて近くに対応できる病院があることも確認しておきましょう。



#### Check Point

- ✓ バギーで移動できる平地のキャンプ場を選ぼう
- ✓ 車で行く場合、できるだけキャンプサイトの近くまで車で入れるところを選ぼう

////// 先輩からのアドバイス //////



キャンプサイトに直接車を乗り付けられるオートキャンプ場は荷物の出し入れもしやすいので特におすすめ。

- ✓ 電源を必要とする医療的ケアが必要な子とキャンプに行く場合、必ず電源を確保できるキャンプ場を選ぼう
- ✓ 緊急時を想定して近くに病院があり、救急車が乗り付けられるキャンプ場を選ぼう

////// 医師からのアドバイス //////



キャンプに行く前に、主治医の先生から紹介状を書いてもらい、持参することをおすすめします。緊急の場合はどの病院に搬送されるかわからないので、紹介状の宛先は空欄にしておきましょう。

### STEP 3 確認する

#### キャンプ場の設備を 確認しよう

いよいよキャンプ当日！現地に着いたら、自然の空気を感じながら、設備の場所を確認しておきましょう。最初にルートを確認しておくと、その後の行動がスムーズになります。



#### Check Point

- ✓ トイレやシャワー、手洗い場の場所を確認しておこう
- ✓ 電源がとれる場所を確認しておこう
- ✓ 大雨などの緊急時に避難できる屋内エリアの場所や夜間の入り方を確認しておこう

# 02 ツール編

## これさえあれば安心 「快適」と「安全」を支える優しいキャンプアイテム

医療的ケアが必要な子と一緒にキャンプを満喫するために、アイテム選びにもポイントがあります。“慣らしキャンプ”でアイテムを試しながら、自分たちに合ったものを見つけてみましょう。

### Table



テーブル  
ワンアクションテーブル竹

着替えや吸引器も置ける  
平地のなかでモノを置く場所として重宝してくれるテーブル。コンパクトなものもありますが、適度な高さがあると何かと助かります。食卓として料理を並べるだけでなく、着替えや吸引器、バッテリーなど、地面に直置きしたくないものも乗せられるように、ハーフサイズのテーブルを2つ準備するという選択肢もOK。

### 寝袋

#### ジッパーをひらけば 掛け布団に変身

良い眠りのためにマットとセットで必要になるのが寝袋。両側にジッパーが付いていて、掛け布団と敷き布団の2つに分けて使える優れたもの。寝袋の状態だと、医療的ケアが必要な子をすっぽりと包み込み、ジッパーを開けば途中で栄養やお薬を注入したり、手を握って冷えていないか確かめたり、ケアのときも便利です。



セバレートオフトンワイド

### Sleeping Bag



ランドロック

### Tent

#### テント・シェルター

#### 直立できる高さがあるとベスト

リビングと寝室を両立する2ルームのシェルターがおすすめ。天井が高めの広々としたシェルターなら、リビングでバギーに乗った子どももそのまま入れて、たんの吸引やオムツ替えなどのケアもしやすいです。

#### 焚火台

#### 日常にはない 火の温もりを体験

キャンプで焚火を楽しむなら、スノーピークの「焚火台」は絶対的定番。直火禁止のキャンプサイトのルールにも対応し、シンプルな開閉機構でコンパクトに持ち運べます。タフなステンレス材質で長く使えるので、炎と共に思い出を刻みながら、家族を次の野遊びへと誘ってくれるでしょう。

### Fireplace



焚火台



HDタープ「シールド」・ヘキサ

#### タープ

#### 直射日光や雨から 身を守る

テントと一緒にタープを組み合わせれば、日差しや雨を避けながら外の空気をたっぷり感じられます。小型のものよりも、バギーがそのまま置ける高さのものが◎ テントに比べて設営が簡単なので、キャンプ場に着いたらまずタープを組み立ててあげると、子どもの居場所ができて安心です。

### Tarp

#### 棚

#### バッテリーやランタンをおしゃれに収納

組み立て式の棚があると何かと便利。電気製品やスマートフォン、着替えなどの置き場所として使えて、テント内もスッキリします。



ワンアクションラック

### Shelf

#### マット

#### 寝かせる場所だから クッション性にこだわりたい

アウトドアシーンで寝心地を確保するならマットにもこだわりたいところ。十分な厚みがあるものを選べば、地面の凹凸も気になりません。プラーノのキャンプでは「家のベッドよりもよく眠れた」という声も聞こえてきました。

### Mat



キャンピングマット

#### LEDライト

#### 夜のキャンプも これがあれば安心

照明器具はキャンプの必需品。ガスランタンは取り扱いが難しく、引火する危険もあるので、おすすめはLEDライトです。テント内のループに吊るせるものだと特に便利です。

### LED Light



たねほおずき



HOME&CAMP  
ランタン



スノーピークコット ハイテンション

### Cot

#### コット

#### ベンチとしても、ベッドとしても使える

キャンプで安眠を支えてくれるコット。テントのベッドルームで就寝用に使うこともできますが、リビングルームに置けば医療的ケアが必要な子の休憩スペースとして活躍してくれます。地面から高さのあるコットなら、バギーから下ろして寝かせるときの負担も少なくなるのでおすすめ。寒い季節はコットの下面から冷気があがってくるので、マットなどを敷いてその上に置くと寒さが和らぎます。

#### 調理台

#### 立って調理する タイプなら視界良好

料理もキャンプの醍醐味。火を起こして作るのもいいですが、バーナー式のコンロを備えた調理台を使えば灰が舞うこともありません。食事を医療的ケアが必要な子とシェアする場合、衛生面でも安心です。



アイアングリルテーブル

### Cooking Table

### 手ぶらCAMP

by snow peak

道具を持っていない方でも  
手軽にキャンプ体験!

スノーピークの直営キャンプフィールドと提携キャンプ場では、1泊2日のキャンプ体験が楽しめる「手ぶらCAMP」プランをご用意しています。

詳しくはこちら



# 03 | 食事編

家電に頼ってもいい  
炭火にこだわらず、自由にキャンプ飯を楽しもう。

「せっかくキャンプをするなら、火を起こして手の込んだ料理を作りたい」  
挑戦するのはとても素敵なこと。でも、うまく炭に火がつかなかったり、火力が安定しなかったり、最初はうまくいかないことも。料理に集中しているあいだに子どもから目を離してしまうかもしれません。そんな心配があるのなら、電源を確保して便利な調理家電に頼るのもOK。炊事に追われるよりも、キャンプ場で過ごす時間を大切に。

## おすすめしたい神アイテム



炊飯器

コレさえあればスイッチひとつで美味しいご飯が簡単に炊けるのでとても安心!炊き込みご飯など、アイデアレシピもおとのものです。炊飯器でラクをすれば、その分他の料理に力を入れることもできますね。



コーヒーメーカー

自然に囲まれながら、美味しいコーヒーで一服。至福のひとつもコーヒーメーカーで手軽に。電源さえあればテントの室内でもコーヒーを入れられます。



湯沸かしポット・保温ジャー

お湯を沸かせるポットがあると何かと便利。雨が降って火が起こせないとき、テント内でお湯を使えと、お茶を飲んだり、カップラーメンやレトルト食品を食べたりできて安心です。また、胃ろうのお子さんには、経管栄養を温めるための保温ジャーを用意するのもおすすめ。



## アウトドア気分を盛り上げる アウトドアミキサー飯

せっかくキャンプに来たのだから、医療的ケアが必要な子ども家族みんなで同じ食事を楽しんでみませんか?カレーやラーメンなど、作った食事をミキサーに投入。ポイントはサラサラの液状ではなく、少しとろみのあるポタージュ状にすること。ご飯やパンを入れると自然なとろみがつきます。

### 先輩からのアドバイス



野菜などの食材は事前におうちで切ったものを小分けにして持っていくと、包丁要らずで料理ができて、洗いものも減らせます。

# 04 | 遊び編

家族みんなで  
野遊びを楽しもう

広い大地を踏みしめて、いつもよりも高い空を見上げる  
特別な準備はありません。  
キャンプフィールドには“五感で楽しむ野遊び”が溢れています。

## 昼には昼の遊びを

まずは昼間のうちにキャンプフィールドをお散歩。バギーを押して、行けるところまで行ってみましょう。舗装されていない大地の上では、落ち葉を踏む音や小石のゴツゴツ、芝生の柔らかさなど、それだけでいろいろな感覚を味わえます。耳を澄ませば聞こえてくるのは、木々のざわめきや鳥のさえずり。季節を伝える風の匂い、目を細めたくなるほどの眩しい日差し。家のなかにいるとなかなか感じられない自然の営みを全身で味わい、家族で言葉にならないたくさんの発見を共有しましょう。



## 夜には夜の楽しみを

日が沈んできたら、焚き火を囲むのも贅沢なひととき。焚き火台の前で車椅子の子どもと一緒に椅子を並べるのもいいですが、子どもを膝に抱けばお互いをもっと身近に感じられます。きょうだいはランタンの光で闇を照らして探検ごっこをぜひ。揺らめく炎の灯りと温もり、煙の香りを共有しているうちに、子どもの表情が柔らぎ、体が緩んでいくのがきつと伝わってきます。晴れた日なら子どもと一緒にコットに寝転んで天体観測するのがおすすめ。夜、外に出るだけでも非日常なので、普段の暮らしでは見られない満天の星空は本当に特別な思い出になるはず。

## 自然のなかで遊ぶときの注意点

- お散歩のとき、子どもによっては突発的な衝撃や音で痙攣を起こしてしまう場合もあるので、様子をみながら最初はゆっくりと慎重にバギーを押していきましょう。
- 焚き火は3m以上離れて楽しみましょう。呼吸器を使っている子どもの場合、距離が近いと機器が煙を吸い込んでしまう場合があります。

# REPORT

## 体験レポート

2022年11月、Buranoのメンバー4家族が  
実際にお泊りキャンプに行ってきました。  
場所はキャンパー憧れの地、新潟県燕三条にある  
“HEADQUARTERS Campfield”。  
新幹線や車での長時間移動も経て体験した非日常は  
一体どんなものだったのでしょうか。

最新のキャンプレポートは  
Webサイトからご覧いただけます。



### 秋山さん家族

## たくさんの「できた!」が 家族の自信に



[必要なケア] 胃ろう / 酸素 / 呼吸器 / 吸引

初めてのキャンプ、この日を待ちわびていました!息子はいつでも横になれるコットがお気に入り、負担なく過ごせたと息ます。木の枝に葉っぱを刺し手渡したら、くるくる回して楽しんでいました。家ではゲームばかりしているお姉ちゃんも、電子機器から離れて自然のなかにあるもので工夫して遊んでいて、その姿には驚きましたね。食事の時間はいつもの経管栄養だけでなく、ミキサー食で同じメニューを楽しめたことも貴重な体験。お風呂が大好きな息子を、今回はお風呂に入れてあげられず心配でしたが、パパと焚き火を見ているときの表情がとても穏やかで、いつもとは違った暖かさや安らぎを感じてもらえたのかもしれない。テントを建てる、野遊びをする、料理を作る、焚き火をする、テントで眠る…この旅には数えきれない「できた!」があって、家族の自信につながりました。

…………… テント内の使い方・初キャンプの学び ……………

リビングルームにはあえて大きなテーブルは置かず、床にシートをしてスペースを大きく使いました。その代わりに小型の棚を置き、上の段で薬を解いたり、下の段に酸素ポンペを置いたり。汚れた服を洗って干したり、経管栄養をひっかけるためのフックを持っていけば良かったということが今回の学びです。

### 森川さん家族

## 車がなくても キャンプに行けた! 移動のドキドキも旅の思い出



[必要なケア] 胃ろう / 吸引 / 側湾・拘縮

家族で初めてのキャンプ体験。車を使わず電車で移動しました。初めて乗った新幹線で、気圧の変化にもドキドキ…。オムツ替えや、子どもを横にさせてあげたいとき、多目的室がとっても便利でした。キャンプ場ではコットに寝かせたらとても気持ち良さそうでした。何もかもが初めての経験だったので、テントの設営や料理などに時間がかかってしまったことが心残り。ゆっくりと景色を感じたり、写真を撮ったりして過ごす時間ももつとつくれたらよかったです。でも、ドキドキしながら新しいチャレンジができた体験は家族の宝物。

…………… テント内の使い方・初キャンプの学び ……………

テーブルと椅子はリビングルームの端に置くことでバギーもスッキリと室内に収まり、家族でくつろげる十分な広さがありました。寝るときは寒さ対策として大型のカーベットが活躍。半分の面だけ温められるものだと、足元だけ暖をとれて寝苦しさも解消できます。いつも頭を高くして寝ている娘は平らなマットに慣れない様子だったので、いつも使っている枕を持っていけば良かったです。



## 自然に触れることで、 その厳しさと 素晴らしさに出逢えた



[必要なケア] 胃ろう／吸引／気管切開

医療的ケアが必要な娘が生まれてから、災害が起きて電気が止まってしまったときの不安がいつもあります。今回のキャンプはそのための予行練習として「できるだけ電気を使わないこと」を目指しました。心配する私たちの思いとは逆に、娘はキャンプ場に足を踏み入れた瞬間、落ち葉や踏み音や、風で落ち葉が舞うことにイキイキと反応して、今まで見たことがないような表情を見せてくれました。その顔が今でも忘れられません。自然に触れること、今までなんで避けてきたんだろう…。妹も元気に野原を駆け回って遊んでいて、やっぱり子どもは自然が好きなんだと気づかされました。11月ということもあって夜は寒く、寝るときは湯たんぽが大活躍。家族でリレーして暖をとれましたが、人数分用意しておけばなお良かったです。結局は電気毛布も使い、電気のカも借りました。今度はもう少し暖かいときに、電気を使わないキャンプをリベンジしたい。大掛かりな準備をしなくても、近所の公園や河原など、身近な自然に子どもたちを連れ出して野遊びを楽しみたいです！

…………… テント内の使い方・初キャンプの学び ……………

リビングルームには大型のテーブルと椅子を置いて家族団らんの時間を過ごしました。11月上旬の夜露は予想以上。バギーや電気器具にはカバーをかけて対策をしました。テント自体がとてもしっかりとした作りで安心。リクライニングできる椅子があったらもっとくつろげたかも。

## 娘と眺めた 憧れのキャンプフィールド 「自然と涙が溢れた」



[必要なケア]・胃ろう／吸引／発作痙攣／側湾・拘縮

前から何度か家族でキャンプをしたことがあった私たちにとって、スノーピークHEADQUARTERSキャンプフィールドは行ってみたい憧れの場所でした。車での長距離移動でしたが早めに家を出て休憩しながら無事に到着。お姉ちゃんはバギーから降りてほとんどの時間をコットの上で過ごし、落ち着いて普段と変わらない様子でした。夜になって、お姉ちゃんを先にテントのなかで横にさせましたが、心細く不安げな表情でなかなか寝つかず。抱っこをして一緒に焚き火にあたっているうちに気付いたら眠っていました。星空や、フィールドに広がるキャンパーのテントの明かりも本当に綺麗でした。妹はよくお姉ちゃんのことを見てくれて、料理もお手伝いしてくれたり、心強かったです。二日間のキャンプを終えて帰る間際、バギーを押してお姉ちゃんと二人きりでフィールドを見渡したら、なぜか涙が出てきて…。今度は焚き火でダッチオープン料理に挑戦してみたいな。新しい夢が膨らむ旅でした。

…………… テント内の使い方・初キャンプの学び ……………

いろいろ置ける大型のテーブルがリビングルームで大活躍。着替えや小物を詰め込んだボックスは持ち運びもしやすく、夜露対策にも重宝しました。ベッドルームはマットを2枚重ねてさらに快適に。さらに寒さ対策として、電気毛布や湯たんぽも準備したのでポカポカで過ごせました。もっとキャンプに慣れてきたら、もう少し荷物を減らして身軽に楽しんでみたいです。

# Q&A

## Q1. どんなキャンプ場がおすすめですか？

- A. まず、次の条件を押さえておく必要があります。
- バギーで移動できる平地のキャンプ場
  - で行く場合、キャンプサイトに直接車を乗り付けられるオートキャンプ場
  - 電源を必要とする医療的ケアが必要な子とキャンプに行く場合、必ず電源を確保できるキャンプ場
  - 近くに病院があり、救急車が乗り付けられるキャンプ場
- このほかにも、お湯が出る炊事場やシャワールームがあると快適に楽しめます。

## Q2. キャンプ場にはどんなことを伝えておくといいですか？

- A. 予約をするとき、子どもの状態（歩けるか車椅子か、視力があるかどうか）を伝えて、受け入れられるキャンプ場かどうかを確認しましょう。

## Q3. 料理が苦手なので楽しめるか不安です。

- A. 無理をして手の込んだ料理を作る必要はありません。カセットコンロを持っていけば調理も簡単。野菜などは予め切って段取りごとに小分けにして持っていくとスムーズで、洗い物も少なくできます。

## Q4. 普段のお出掛けよりも余計に用意しておいた方がいいものはありますか？

- A. お薬は多めに準備しておいた方が安心です。  
また、寒い季節は吸引器などの充電の減りが早いので、バッテリーも多めに持っていくと良いでしょう。

## Q5. 屋外では虫やホコリが衛生面で心配です。

- A. 完全に防ぐことは難しいですが、いくつかポイントがあります。  
虫は木の上から落ちてくることがあるので、テントを張るときは木のない場所がおすすめ。  
また、大きめのシートがあると地面に敷くことで虫やホコリを防げます。



**Project Staff**

キャンプ監修	跡路茂文(株式会社スノーピーク) 藤坂香織(株式会社スノーピーク) 久保大輔(株式会社スノーピーク) 野原立(株式会社スノーピーク) 坂田真也(株式会社スノーピークビジネスソリューションズ) 大塚美樹(株式会社スノーピークビジネスソリューションズ) 田口冬来(株式会社スノーピークビジネスソリューションズ)
医療サポート	上野友之(茨城西南医療センター病院)
Creative Director	木下博司(MEETING Inc.)
Art Director, Designer	天野裕一(FLEMING Inc.)
Web Director, Design	石川貴彬(FLEMING Inc.)
Writer	下條信吾
Photographer	宮川ヨシヒロ
Movie Director	小ノ島充貴

**Makuake Special Thanks**

岩瀬正樹  
坂本宣  
大隅朋生  
小野寺賢/友紀  
特定非営利活動法人ままはーと  
ark アーク  
高橋昭彦(うりずん)  
有限会社 白石製作所 茨城県古河市  
山井多香子  
NIDO一級建築士事務所  
^\_^

※敬称略